

## 令和3年度(2021年度) 第1回とよなか都市創造研究所運営委員会 議事要旨

日 時 : 令和3年(2021年)6月24日(木) 18時00分~19時45分  
傍聴会場 : 人権平和センター豊中3階  
出席委員 : 石川委員、草郷委員、肥塚委員、宗野委員、井加田委員、満島委員  
事務局 : 榎本、寺田、石村、松田、比嘉、平田  
傍 聴 : 1人  
備 考 : ZOOMによるオンライン会議で実施

### ○開会

### ○部長挨拶、事務局員紹介

### ○案件(1) 委員長及び副委員長の選出について

資料: 資料1「とよなか都市創造研究所運営委員会規則・委員名簿」

資料2「とよなか都市創造研究所運営委員会の公開について」

- ・肥塚委員を委員長に選出
- ・宗野委員を副委員長に選出

### ○案件(2) 令和2年度(2020年度)事業報告について

資料: 資料3「令和2年度(2020年度)事業報告について」

事務局から資料に基づき説明。説明内容は略。質疑応答なし。

### ○案件(3) 令和3年度(2021年度)調査研究について

資料: 資料4「令和3年度(2021年度)調査研究について」

### ≫ 少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究IV

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員: 人口推計については社人研(国立社会保障・人口問題研究所)のコーホート要因法が確立されているが、本研究では人口推計マニュアルのどの部分を発展させ改定していくのか。また、人口の問題については、人口減少だけではなく人口構成の変化にも留意する必要がある。人口構成の変化に関してどこを精緻化していく

のか。

- ・事務局：人口推計の手法の根幹は大きく変更せず、コーホート要因法をベースとしていく。出生率や純移動率などに基づく仮定値について改めて検討したい。  
本市の人口ビジョンや総合計画における人口推計は 2010 年を起点にしている。約 10 年が経過した今、過去に行った人口推計の精度を検証したい。また、細かい点ではマニュアルに記載しているデータ入手方法やホームページのリンクアドレスの変更について修正を行いたい。  
精緻化については、現在は豊中市全域での人口推計になっているが、都市計画マスタープランの 7 地域や 41 小学校区など、地域別の人口推計のニーズが市内で高まっている。そこで小地域別の推計を検討している。また、世帯に関する推計や家族構成別の細かい分析も実施したい。
- ・委員：地域別推計については地域が小さいほど外部要因が大きく影響し、推計の精度が下がってしまう。精緻化のレベルについてどう考えるのか、何を重視するのか、バランスをとりながら研究を進めてほしい。
- ・委員：本研究では市政への影響の部分についてはどの程度掘り起こしを行うのか。また、昨年度、外国人に関する研究を実施されていた。この間入管法の改正などの制度変更があったが、外国人人口のデータを追っていくことも興味深い。
- ・事務局：今回の研究はどちらかというと人口推計のテクニカルな部分に焦点をあてている。ご提案のとおり外国人人口についても考察を深め、課題を深掘りしていきたい。
- ・委員：自治体シンクタンクとして、この研究が市の政策のどういう面につなげられるかを強く意識して研究を進めてほしい。
- ・委員：国勢調査のマイクロデータ分析の項目案として、未婚の子と親の世帯についてなぜ取り上げたのか。
- ・事務局：過去に豊中市の単身世帯に関する研究を行った際に、いわゆるパラサイト・シングルと呼ばれる成人した未婚の子と親が同居する世帯について、親の死別などにより未婚の子が単身化した際に様々な生活上のリスクが高まるという知見を得た。これをうけ、そのような世帯類型の職業や居住について詳しく調べたいと考えた。
- ・委員：SDGs に関心があり、まちがサステイナブルになるために、社会課題の解決に向けたエビデンスがもっと必要であると考えている。人口減少について統計面から課題をあぶりだしていくことを期待する。
- ・事務局：例えば少子高齢化が進む南部地域について、地域別・家族類型別の人口推計をすることで人口の面から社会課題を裏付けることができると考えている。

## ≫ 「南部地域活性化推進に関する調査研究」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：活性化を推進する主体は誰か。
- ・事務局：第一義的には市である。研究の成果は市の施策に役立てる。
- ・委員：地域の活性化の主体は、行政と住民の両方であると思う。貴重な取り組みであるので、是非住民を巻き込んでの活性化にしてほしい。良いものを持続的に拾い上げていかないと地域は変わっていかない。
  
- ・委員：なぜ、ポジティブな面のみ取り上げるのか。ネガティブな面も含めた客観性に根差した研究にしたほうがよいのではないか。
- ・事務局：過去の研究では、南部地域のポジティブ、ネガティブ両面について検証を行っており、南部地域の住民が自らの地域をネガティブにとらえる場合が少なくないことが示されている。そのため、今回の研究では、既往研究をふまえ、あえてポジティブ面に焦点をあてることで、地域の魅力や良さを南部の地域の住民に再認識いただき、まちの活性化につなげることを狙いとしている。
  
- ・委員：南部地域の方が活性化の主体と考えると、1回のアンケートと数人のヒアリングだけでは住民レベルの活性化はできない。住民自身が自分たちの地域資源を発見できるように、継続的にヒアリングし、その発見をもとに次のステップに行けるようなきっかけができるといい
  
- ・委員：南部地域は、緑や治安などのハード面ではネガティブにとらえられがちだが、人の温かさ、つながりというソフト面は地域特性としてソーシャルキャピタルと言える。このような側面はアンケート項目に含めてもいい。
  
- ・委員：アンケートの対象は。
- ・事務局：紙ベースのアンケートは南部地域の住民を対象とし、WEB調査を南部に限定せず実施する予定である。
  
- ・委員：アンケートでポジティブな面を掘り起こすということだが、南部地域のイメージが固定しているので、ポジティブな回答が思うように得られない可能性もある。客観的なデータを提示して、今までのイメージと実態が違うことを示すという方法もある。アンケートにこだわらず、むしろ調査の手法を検討するという研究でもいい。  
また、コロナで人が孤立しがちだが、人のつながりが強い南部地域では孤立が少ないのではないか。アンケートの手法だけにこだわるのではなく、ワークショ

ップやグループワークで、地域の良さを再発見し、いっしょにイメージを作り上げていくという方法もある

- ・委員：ワークショップには南部に住んでいない人にも参加してもらい、外から見た南部の良さについて話してもらおうといい。そういった市全体にブリッジをかけるような役割を市は担うことができる。

## ≫「豊中市のアンケート調査の活用に関する調査研究（案）」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：WEB調査と紙調査の何を比較調査するのか。
- ・事務局：属性による回答傾向の違いを比較したい。調査結果から、WEB調査、紙調査、それぞれのメリットや、WEB調査が自治体の調査業務においてどれくらい使えるのかを検証したい。
- ・委員：WEB調査と紙調査を異なる対象者に行って、どちらがいいと比較できないのではないか。
- ・事務局：良い悪いの比較ではなく、それぞれの特性に焦点をあてたい。効果的な使い方やコストなども調べたい。
- ・委員：次に続く様々なパターンの一つとして経験を蓄積するという趣旨で今回アンケートを1回行ってみるといいと思うが、今回の結果だけでWEBと紙とを比較するという点についてはリスクが非常に大きく慎重に考えるべきである。
- ・委員：豊中市で実施しているアンケート調査は一元化されているのか。
- ・事務局：アンケート調査結果は、各部局が市のホームページなどで公表しているが、一元化されていない。
- ・委員：WEB、紙調査の比較というよりも、市役所内部のアンケート調査の結果をまとめることのほう重要なのではないか。豊中市に限ったことではないが、異なる部局から似たようなアンケートが来る。調査をまとめることで重複もなくなり、コストも抑えられるのではないか。
- ・委員：市役所内のアンケート調査がまとめられ、オープンデータ化されていると利用可能性が高い。また、豊中市がDX（デジタルトランスフォーメーション）を活用し、市民の声を集めるスキームを作ることも検討してはどうか。
- ・委員：市民の声をどうやって集める予定か。またSNSをどのように分析する予定か。

- ・事務局：「市民の声」とは、豊中市の広報部門に寄せられた市民の意見を集約したものをそう呼んでいる。市はフェイスブックやツイッターも行っており、それらのデータが蓄積しているので、活用できないかと考えている。アンケート調査では若年層の回答率が低いので、様々な方法で意見を集めることを考えている。
- ・委員：フェイスブックは狭いコミュニティで濃い議論ができるので、市についての意見を分析するにはフェイスブックが適切と思う。

#### ○案件（４）令和３年度（２０２１年度）機関誌について

資料：資料５「機関誌「TOYONAKA ビジョン 22 vol. 24」について」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：小テーマの中でも、「健康を支える行政保健師」は重要な内容なので、現場の保健師に執筆もしくはインタビューをするなどしてほしい。

#### ○案件（５）令和３年度（２０２１年度）とよなか地域創生塾について

資料：資料６「とよなか地域創生塾の概要」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：第１期から今期までの塾生が期をまたいで交流することが地域活動の持続可能性につながる。サステナビリティに留意した運営を行うことで塾の活動がより良いものになることを期待している。

#### ○案件（６）その他

##### ≫事務連絡

- ・平成 27 年版豊中市産業連関表を年内に作成予定。業者はプロポーザル方式で決定。職員にも研修を行って利活用を推進。
- ・庁内グループ研究事業を行う。応募職員 5 名によるグループを結成。テーマは「ソーシャルキャピタルを活用した南部地域活性化」。調査研究と連動して南部地域活性化を進める。
- ・次回運営委員会は 10 月ごろを予定。

○閉会